

慶 應 義 塾 大 学 試 験 問 題 (三 田)

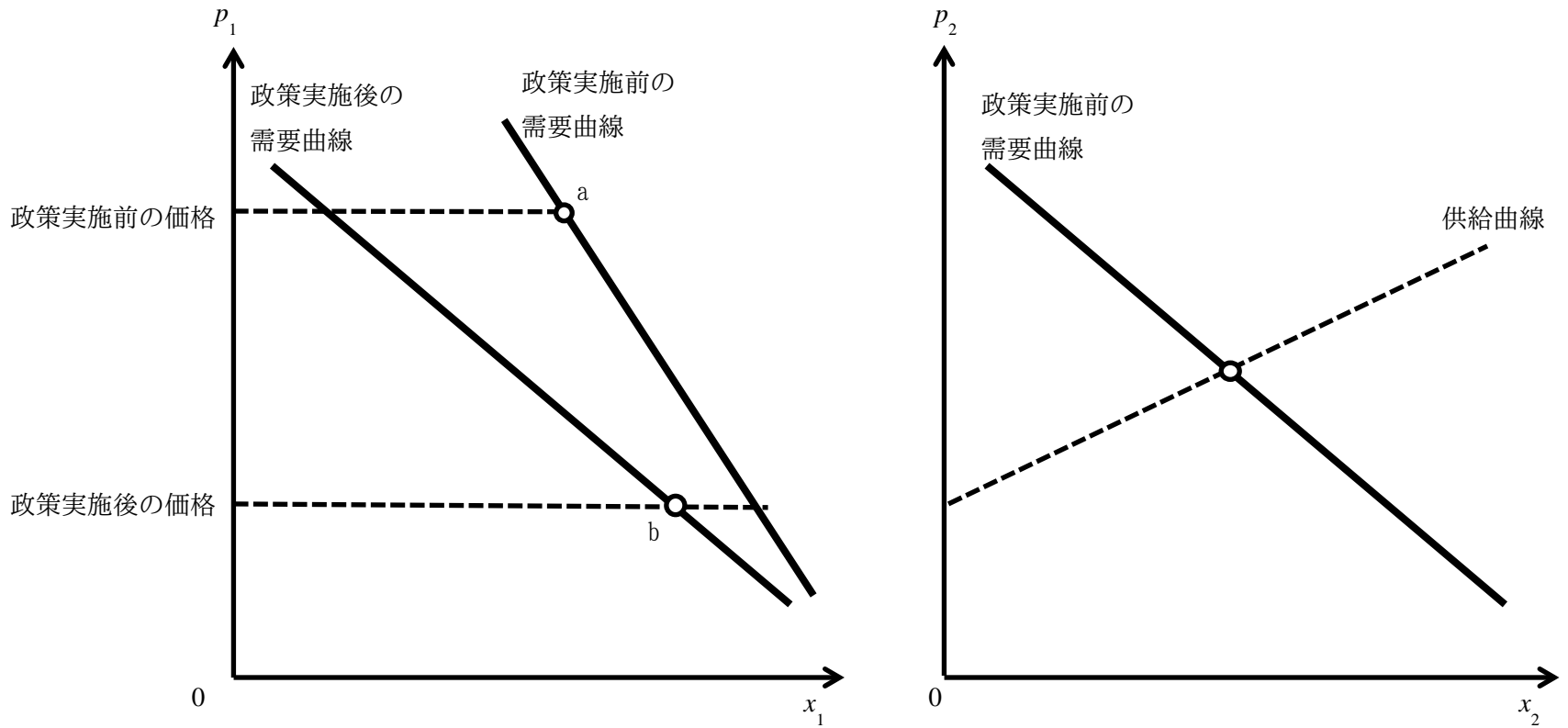
平成	年	月	日()	時限施行	学部	学科・専攻	年	組	採 点 欄	※
担当者名	別所 俊一郎 君				学籍番号					
科 目 名	[経]経済政策論a				氏 名					
持 込	持ち込み不可				試 験 時 間 50 分				答 案 別 紙 問 答 一 体	

以下のすべてに回答しなさい。

1 . 以下の記述が適切かどうか判定しなさい。不適切なときには下線部をどのように修正すればよいか、理由とともに簡潔に書きなさい (各6点, 54点)。

(1) 交換の効率性が満たされているとき、各個人間では <u>限界変形率が均等化</u> している。
(2) パレート基準は効用の比較可能性を <u>認めている</u> 。
(3) 家計の費用最小化問題を解くことで求められる需要関数を <u>マーシャルの需要関数</u> と呼ぶ。
(4) 通常の需要に所得効果が働かないとき、補償変分の大きさと等価変分の大きさは <u>等しい</u> 。
(5) <u>帰着ベース</u> の費用便益分析では各個人の効用の変化を計測するので公平性への効果を考慮することができる。
(6) 費用便益分析における投入物の費用は、公的部門がその投入財に対して支払う額よりも <u>必ず大きい</u> 。
(7) 投入物の市場が完全で、公共プロジェクトのための調達によっても価格も供給量も変化するとき、投入物の費用は <u>調達前の価格で評価すべきである</u> 。
(8) 費用便益分析における割引率を設定するとき、資本市場が完全であれば割引率は <u>市場利子率より高く設定すべきである</u> 。
(9) 道路建設によってある種の野生動物が絶滅してしまうとき、それに対して、現在も将来も誰も何も感じないとすれば、その絶滅は <u>費用便益分析に含める必要はない</u> 。

2. 政策プロジェクトの波及効果について考えます。2つの財市場を想定し、財1(左の図)のみが政策の直接の対象になっており、財2(右の図)は政策の対象ではないとします。財2が財1の補完財であるとき、政策実施によって財1の消費点がaからbに移動したとすれば、社会厚生の変化はどのようになるか、下記の図に記入し、文章による簡潔な説明を加えなさい。必要であれば需要曲線や供給曲線をシフトさせること(22点)。



3. 費用便益分析における投入物としての労働の費用(シャドウプライス)について考えます。最低賃金規制があるために労働市場に失業者が発生しているとき、この労働市場からプロジェクトのために最低賃金で労働力を雇用したとすると、労働のシャドウプライスはどのように設定すべきでしょうか。設定の方法の候補を3つ挙げ、それぞれの根拠と短所を説明しなさい(24点)。